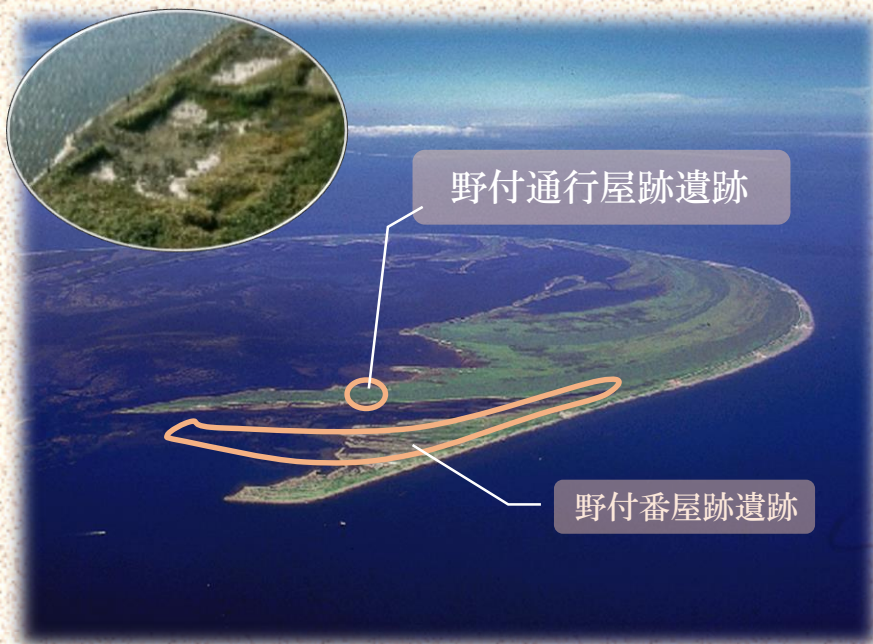


# 野付通行屋跡遺跡（別海町）

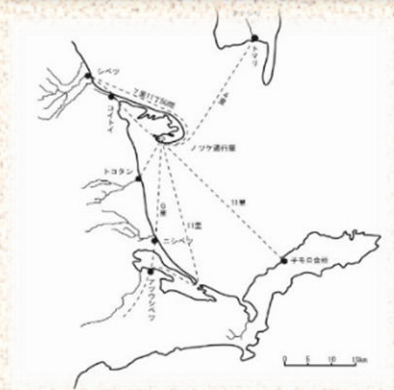


遺構・遺跡

**野付**通行屋跡遺跡は江戸時代末期の遺跡であり、

文献資料と遺構が残った北海道の中でも貴重な遺跡として知られています。

野付通行屋は寛政元年（一七八九年）に起こったクナシリ・メナシの戦い、寛政四年（一七九二年）にロシアの使節ラクスマンの来根など、蝦夷地の国防に係る対策の必要があったことから寛政十一年（一七九九年）に野付半島先端に設置されたものです。通行屋には支配人とその妻、アイヌの人足八人が詰めていたとされており、対岸にはニシン漁の番屋が江戸時代に六十軒ほど建ち並んでいたとされています。



## 設置前から野付半

島は、国後島泊までの距離が約十六キロと最短ルートであったことから要所とされています。

「津軽一統志」（二六七〇年）には、「みむろ（根室）よりのしけ（野付）着」

（中略）是よりらっこ島くなしりへ渡り」とあり、国後島へ渡るために一度野付半島を経由していたことが分かっています。



「東蝦夷日誌」松浦武四郎（安政3年）

## 野付半島の先端を描いた松浦

武四郎の「東蝦夷日誌」では、通行屋（中央下の三軒）やニシン漁を行っていた番屋（対岸の建物群）が描かれています。

この松浦武四郎という人物は、「北海道」という名称の名付け親として知られています。

これ以外にも多くの書物で通行屋や番屋が描かれており、当時の野付半島の様子が窺えます。

## 野付通行屋跡遺跡（別海町）（その二）

一年で一センチメートル、半島は年々沈下しています。

このまま放っておくと遺跡も浸食され、崩壊の危険があることから別海町は平成十五年から十七年にかけて発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、建物跡や柱穴列、溝跡、貝塚といった遺構、陶磁器類や金属製品、木製品といった遺物、約一万二千点が出土しました。

しかしながら、この調査は遺跡全体の半分しか行われていないため、もう半分は未だ手付かずに残されています。今後、新たな発見があるかもしれません。



### コラム

#### 「幻の町キラク」

野付半島に伝わる伝説として、野付通行屋跡は地元の人から「幻の町キラク」と呼ばれています。このキラクという町には江戸時代末期にたくさん建物が建ち並び、武家屋敷や遊郭などがあったそうです。しかしながら、いつ頃から忽然とその町は姿を消し、伝説となったと言われています。この話は文献資料等には残されておらず、「キラク」という言葉もどこにも記されてはいません。



### ◆所在地地図

#### 野付通行屋跡遺跡

#### 【住所】

野付半島ネイチャーセンター

北海道野付郡別海町野付63

※野付半島ネイチャーセンターから

車と徒歩で約30分

※遺跡まで行くには許可が必要です。